

## ① スタンダードの考え方

「頭が大きくて、首や足が短くて、ずんぐりむっくりな子がほしい」とおっしゃる気持ちはわかります。丸々とした姿形が愛くるしいと思う気持ちも重々わかります。ただそれは、現在のフレンチブルドッグのスタンダードとはかけ離れているということを理解しておきましょう。

といっても、「スタンダードなんて関係ない、血統の良し悪しなんて気にしない。とにかく短足で、ずんぐりむっくりがいい」とおっしゃいますよね。では、とりあえず一旦、ドッグショーに行ってみましょう。一度迎え入れたら10年以上を毎日共にする愛犬なんです。

ペットショップではなく、最寄りで開催されているドッグショーで、今どきのフレンチブルドッグのスタンダードを自分の目で見てみましょう。頭が大きくて適度に首抜けもあり、四肢と胴の構成バランスがとれ、歩様も軽快です。スタンダードに近い子は犬として「綺麗」なんです。それを見てもずんぐりむっくりが良ければ、あなたの選択は間違っていないかもしれません。仮に僕のお店で子犬をお探しいただくとしても、理想に近い、ずんぐりむっくりで健康な子を探すお手伝いをさせていただきます。

## ② ブリーダーの考え方

「高く売ればそれでよし」と考えて、血統や健全性などおかないしの乱繁殖ブリーダーは除いて、健全なスタンダードを考

## フレンチブルドッグ思考法

フレンチブルドッグと暮らすうえで、ものの考え方はとても重要です。情報が氾濫しているこの時代で、わたしたちフレンチブルラバーが身につけなければいけない思考法を、フレンチブルドッグおじさん“はつん”が解説します。



解説



羽田悠一郎（はつん）

フレンチブルドッグ専門「ZAIHOO（ザイホー）」代表

長年のパートナーとして「犬質」にこだわったフレンチブルドッグの子犬・若犬を紹介するフレンチブルドッグ専門店の代表。自身のドッグショーやブリーディングの経験から知り合ったフレンチブルドッグ専門のショーブリーダーと提携。自身の目で選んだ「良質な子犬」を紹介することにこだわりをもつ。

えて繁殖をするフレンチブルドッグの専門ブリーダーで考えたとき、生まれてくる子犬は、犬舎それぞれの系統やブリーダー個々のセンスで差が出ます。

もちろん、スタンダードはジャパンケネルクラブが定めるものがあるのですが、そのスタンダードにプラスして、専門ブリーダーは自分の犬舎の特徴が出た看板犬を作りたいわけです。看板犬を作るために、自分の経験やセンスを信じて血液のかけ合わせを繰り返します。そして看板犬ができて、ようやくスタートラインです。

ドッグショーでチャンピオンを目指し、チャンピオンに上がった後も、看板犬の血液をラインブリードできるように計画繁殖していき、安定的に自分の求める犬質の子犬が産まれるようになって、ようやくその犬舎がフレンチブルドッグの世界で認められはじめます。自分以外の犬舎や血液を頭ごなしに否定するようなブリーダーの中にはいますが、他犬舎やライバル関係の相手でも良い犬は良いと認められるブリーダーほど、良い犬を作っていると思います。

## ③ 血統の考え方

「アメリカ系なので、将来的に小ぶりでコロコロタイプに収まると思います」と僕が子犬紹介文で書くことがあります。それは、その子犬の父母を確認して、繁殖したブリーダーさんとお話して、将来的な予測として記載します。

もちろん生き物なので絶対はありませんが、その血液の繁殖を何度も経験している



大切なのは自分なりに経験を重ねて、愛ブヒに寄り添った生活を送ること  
ではないだろうか。うちの子はうちの子だけの個性があり、かけがえのな  
い「個体」なのだ。ものの考え方によって、そのクオリティ・オブ・ライ  
フは向上していく。きっと長寿にもつながっていくはずだ。

それは長生きだけを目指す、ことじゃない。



ブリーダーさんの予測ですから頼りになります。しかし、アメリカ系だからすべて小ぶりになるわけではありません。アメリカ系でも大柄な子はたくさんいます。ヨーロッパ系を大柄と勘違いされる方も非常に多いですが、小ぶりのヨーロッパ系もたくさんいます。

体質にも違いがあります。アメリカ系はコロコロした印象が強いと思いますが、コロコロというより体質がブニョブニョと柔らかい子も多いです。逆にヨーロッパ系は、肉の詰まった感じで張りのあるコロコロな子が多いです。もちろんブニョブニョが好きかな方もいらっしゃると思いますが、歩様を見たときに上下左右に肉が揺れるのは、スタンダードを考えた場合、美しいフレンチブルドッグではありません。

#### ④ 獣医さんの考え方

「獣医さんの言うことは絶対」であると思われる方が非常に多いです。愛犬に何かしらトラブルがあったとき、獣医さんの診断とブリーダーのアドバイスに違いがあれば、経験上、ブリーダーのアドバイスには聞く耳持たず、獣医さんの意見のみに従う方がほとんどです。お医者さんですからそう思っただけなのかもしれません。獣医さんもピンキリです。

フレンチブルドッグという犬種を正しく理解している獣医さんであれば、フレンチブルドッグを診た経験が少ない獣医さん、大げさに診断して検査を繰り返し、リピート率を上げる獣医さんなど、いろいろな

わけです。もちろんブリーダーも同じようにピンキリなわけですが、「獣医さんの意見は絶対」と思いすぎるのは気をつけたほうがいいと思います。ブリーダーがベテランで経験豊富な優良ブリーダーさんと仮定するならば、ブリーダーの意見は絶対に聞いた上で判断すべきです。

たとえば、フレンチブルドッグ専門のブリーダーで、何十年もフレンチブルドッグと向き合ってきたブリーダーが繁殖した子なら、その血統の成長過程やクセもブリーダーは理解しているわけです。もちろんそういうブリーダーは、自身が長年お付き合いしている獣医さんも数人いるのが普通です。あなたが信頼できるブリーダーだと思っただけならば、愛犬に何かあったときは、ブリーダーのアドバイスはちゃんと聞いてから獣医さんの考えを聞いて判断されればよいと思います。

#### ⑤ 情報の考え方

「ネットの誰が書いたかわからない一行に不安になったりしていませんか？」子犬探しても、子犬を迎えた後でも、ネットに書いてあった情報に振り回されて、頭でっかちになってしまったり、自分から不安を探しに行っている方が多いです。ひとつ解決したら次の不安を探す勢いです。誰が書いたかわからないような情報で不安になるくらいなら、子犬を購入したブリーダーや、僕のようなフレンチブルドッグを専門に扱う人間に電話一本したほうがよっぽど早い



頭が大きくて適度に首抜けもあり、  
四肢と胴の構成バランスがとれ、歩様も軽快です。  
スタンダードに近い子は犬として「綺麗」なんです。

近い話ですが、僕自身も以前に、知り合いからこんな連絡をいただきました。「〇〇というサイトの掲示板で、はっくんさんがQ&Aに答えていたんですが、あれは本人ですか？」僕もびっくりしたのですが、僕のはなりませんが掲示板でフレンチブルドッグの悩み相談を聞いて、相談者の方と掲示板でやりとりしているそうなんです。

そのサイト自体は知っていましたが、正直見ることはなく、書き込むことなどまずありません。もちろんどんな内容だったか気になりましたが、それを見ても結果ストレスにしかならないと思ったので、僕にもなりませんが出てきたのか、と自分を褒めて終わりました。

ただやはり、その掲示板を見た人の中には信じてしまう方もいるでしょうし、間違ったアドバイス聞いた方の愛犬に、何かトラブルがある可能性も想像すると怖くなりました。ネットにはフレンチブルドッグ専門の良きアドバイスサイトもあるとは思いますが、参考程度に考えるくらいでちょうどいいのかもしれない。

#### ⑥ 去勢や避妊の考え方

去勢手術や避妊手術の必要性はとても難しい問題です。獣医さんが勧めるから、周りがみんなやっているから、病気のリスクが減るからなど、人それぞれ判断や決断する理由も違うとは思いますが、獣医さんや経験された方のお話をしっかり聞いて、メリット、デメリットをちゃんと理解したうえで、きちんと悩んで決めていただけたら

と思います。

これに関しては、ブリーダーに相談しても、去勢・避妊はしなくていいとおっしゃる方がほとんどだと思います。ブリーダーは繁殖するわけですから当たり前で聞かせるかもしれませんが、繁殖しなくても、そもそもその自然の生体は崩すべきでないと考えられている方が多いと思います。

僕自身も去勢・避妊ともに1度もしたことはありません。これは個人的な意見になりますが、フレンチブルドッグは人間性を感じさせるキャラクターから、ペットというより我が子同様に愛されている方が多いのですから、去勢・避妊に関しても我が子同様に、ちゃんと考えて判断されるようになってほしいです。

去勢・避妊はしないほうがいいと言っているわけではありません。獣医さんは当たり前のように勧めるものと理解したうえで、あなた自身のためではなく、あなたの我が子のことをちゃんと考えて判断するようにしましょう。

## ⑦ フレンチブルを選ばない考え方

「チワワのように目が大きくてクリクリで、体重8キロ以内の極少フレンチを探しています」「ブルドッグのようにふてぶてしい顔で、短足でお腹が地面につきそうなくずっしりボディーの大柄な子を探しています」そんな子犬のお探し依頼がここ最近増えました。

僕はフレンチブルドッグという犬種がいちばん好きで、フレンチドッグと暮らす幸

せを長年体感しているので、自信をもってフレンチブルドッグという犬種を紹介しています。

しかしこの場合は、ちゃんとチワワを勧めますし、ちゃんとブルドッグを勧めます。お気持ちはわかるんです。この数年、ミックス犬や極少フレンチがペットショップに並び、珍しさからの人気もあるでしょうし、「高額＝良い犬」と思って、そもそもフレンチブルドッグのスタンダードな姿形を知らないまま、それを一般的なフレンチブルドッグと認識してしまうのでしょうか。

その他には「アメリカ系のクリームで頭が大きくてシヨートボディーのムチュムチな子を、予算20万円以内で」といった、条件とご予算が合わないご依頼も増えてきました。これもお気持ちは非常にわかるのですが、その条件でご予算が20万円以内となると、まず情報はありませんので、予算が限度でしたら他の犬種をオススメします。

子犬を迎えてからもお金はかかりますし、ご存知のとおり、フレンチブルドッグは体の強い犬種ではありませんので、病院代など何かしらの費用が出てくる可能性もあるわけです。そう考えたとき、無理にフレンチブルドッグを選ぶのではなく、ご予算内で無理なくいっしょに生活していける犬種にするべきだと思います。

## ⑧ フレンチブル一択の考え方

フレンチブルドッグは体の強い犬種ではありませんし、いろいろと手のかかる犬種です。もちろん全部ではありません



フレンチブルドッグという犬種を選ぶなら、大変さや手間もすべて引くくめて楽しむ覚悟が必要なのです。

が、10頭いたら7頭は簡単にはいかないと思います。それでも皆さん、残り3頭に出会うつもりで子犬を探すと思います。

僕は15年間フレンチブルドッグの子犬だけを販売しています。できる限り、残り3頭の確率が高いであろう子犬を紹介できるよう努めています。しかし、生き物ですから絶対はありません。軽い疾患から、中には重い疾患が出た子もいます。それでもほとんどのお客様は、迎え入れた愛犬にどんなトラブルが起きても、ご自身やご家族様で受け入れ、向かい合い乗り越えていきます。

僕が「フレンチブルドッグという犬種を選ぶなら、大変さや手間もすべて引くくめて楽しむ覚悟が必要」といういろんなところで繰り返しお伝えしているので、腹を括って子犬を迎えてくれるお客様が多いからなのだと思います。小柄なことにいちばんこだわるなら、チワワやトイプードルの選択肢もありますし、短頭種がよければバグやシーズーの選択肢もあります。他の犬種と迷うくらいなら、わざわざ手のかかる確率の高いフレンチブルドッグでなくてよいと思うのです。

フレンチブルドッグの子犬だって、「覚悟」のできていない飼い主に迎えられるも心を上手に開けないと思うのです。あなたが迷いなくフレンチブルドッグを迎えたいと思えたら、きっと素敵な運命の出会いが待っていると思います。フレンチブルドッグは、その大変さの何十倍もの笑顔や幸せを、間違いなく飼い主に与えてくれる犬種です。

B